

＜第1号議案＞ 2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）

特定非営利活動法人 ぐらす・かわさき 活動報告

■2014年度を振り返って

2014年度は第4期中期計画（2013～2015）の2年目でした。これまでの設立時の多額な寄付金（原田基金）に依存した計画を脱却して、原田基金に頼ることのない体制への移行を目指して事業を行いました。また、2013年度末に認定NPO法人の申請を行いました。2014年6月に認定NPO法人となることができました。

「遊友ひろば」は8月で、開設から10周年を迎えました。運営をひろば運営委員会（ボランティア体制）に変更し、赤字運営から脱却することができました。業務用エアコンの故障による想定外の大きな出費もありましたが、会員および遊友ひろばをご利用いただいている皆様が呼びかけに応じてくださり、出費額を超えるご寄付が集まりました。これも遊友ひろばが「地域の縁側」として親しまれ、今後とも必要とされていることの証と、大変感激しました。ひろばを続けて本当によかったと思います。

「メサ・グランデ」は開設から丸3年が経過し、食と農の地域交流拠点としての役割を果たしてきました。八百屋やカフェの事業は、顔なじみの常連客も増えており、地域の人たちに親しまれてきている実感はありますが、固定費の高さの割に売り上げは伸びず、苦戦が続きました。ワンデイシェフ・チャレンジシェフ・レンタルスペースなどは川崎市創業支援事業計画として認定されたこともあり、国の創業促進事業として補助金を得て、コミュニティカフェ創出支援のための講座の開催にも取り組みました。また、国の地域創業促進支援事業や市のコミュニティビジネス振興事業など、市内の他の会場を使って幅広い層を対象にコミュニティビジネスの創出のための講座を開催しました。

その他、川崎市地域子育て支援センター事業や、たちばな農のあるまちづくり推進事業にも引き続き委託を受けて取り組みました。「かわさき市民しきん」は、2015年5月の設立を目指し、運営体制を固め、設立準備金による寄付を集める活動を行い、設立が実現できる見込みとなりました。

ぐらす・かわさきの資金が底をついてきている中、事務局の機能を、「遊友ひろば」内から「メサ・グランデ」内に一元化して管理コストを抑え、事業全体において少人数体制にし、賃金ベースも最低水準にしたため、スタッフには多大な負担をかけました。且つ補助金事業や委託事業も可能な限り行いましたが、家賃・光熱費などの固定費の高さが響き、収支状況はついに改善しませんでした。

2015年度はこれまでのぐらす・かわさきの活動を整理し、今後に向け選択・集中をしていく必要があります。

2014年度の会員数

	正会員個人	正会員団体	賛助会員	合計
2013年度末	126名	7団体	17名	150名
2014年度末	119名	6団体	17名	142名

※会員は個人会員の入会が8名、脱退が15名、団体会員の退会が1団体、賛助会員の入会が2名、脱退が2名。

■2014年度事業内容

(1) 市民活動を支援するための事業の企画・実施（定款第5条(1)）

① 地域市民ファンド設立準備事業（担当理事：江田・町田、スタッフ：広岡）

収入：905,000円（予算 0円） 支出：848,344円（予算 840,000円）

■目的：市民の思い（共感）を表すお金（志金）と、地域の課題を解決しようと活動している団体とをつなぐことで、暮らしやすい「かわさき」を生み出していく。

■概要：他の様々なセクターと協力しながら、新しく財団法人をつくり、市民の寄付金の受け皿であり、川崎全体の市民活動を応援する仕組みをつくる。

■目標と成果/課題

-目標：9月に設立準備会を立ち上げ、準備会で500人の賛同人（出資者）と財団設立のためや準備に必要な500万円の賛同金（出資金）を集め、2015年3月の財団設立を目指す。
そのための助成金などの確保に努力する。

-成果：・6月に準備会を立ち上げ、設立に向けた取り組みを行った。

・10月5日（土）にキックオフミーティングを開催した。あいちコミュニティ財団の木村真樹さんを講師にお呼びし、100名を超える参加者があった。

・キックオフミーティング以降設立のための寄付を募った。3/31現在3,582,412円（5月3日現在個人147名、団体3、市民しきんマーケットの寄付金合わせて4,127,412円）の寄付が集まっている。これを基本財産と運営資金とし、5月中に一般財団として設立する。

-課題：・設立準備金として目標額にしていた500万円はまだ達成率が83%だが、5月には一般財団法人を設立する目標が達成されることになった。

・助成金を獲得することはできなかった。

② 高津区「たちばな農のあるまちづくり」推進事業

（担当理事：岸田、田代 スタッフ：田代、吉田、東）

収入：2,099,668円（予算 1,998,000円） 支出：2,099,668円（予算 1,998,000円）

■目的：高津区、特に橘地区における地域資源を活用した地域レベルからの地元意識・ふるさと意識の醸成に寄与するとともに地域活性化に寄与する取り組みを、市民と区の協働で行う。

■概要：前年度同様高津区からの委託を受け、「たちばな農のあるまちづくり推進会議」の運営および、今後の自立化に向けて体制づくりながら、これまで取り組んできた「高津 さんの市」農体験イベント、「縁農」、「概要版」作成に引き続き取り組む。

■目標と成果/課題：

-目標：各事業の運営を、事務局であるぐらす・かわさきのリーダーシップから、委員主体で行うように移行し、次年度以降たちばな農のあるまちづくり推進会議が直接受託して運営できるような体制づくりを行う。

-成果：・「高津 さんの市」：久本薬医門公園で偶数月の第3日曜に年間5回開催。各回平均300名ほどの来場者を得て、準備・当日とも若手委員の参画も増え、個々の委員の負担を軽減しつつ、農家のやる気は高まってきた。

・「育てて食べよう！マイ・ベジタブル〜」：種植えから収穫まで年間で3回シリーズで開催した。各回平均30名の参加があり、身近な農と食について地域の人たちに知ってもらおうイベントとして定着してきた。

- ・「縁農」：年度内に 17 回開催。農業の手伝いをする事でたちばなの農に参加し、地域への愛着をもってもらうことにつながった。
- ・「視察ツアー」：黒川に 1 回開催。「写真展」・「フォーラム」：3 月開催。
- ・「写真展」：2 月 9 日（月）から 15 日（日）、高津区役所 1 階ホールにて開催し、17 点の応募があった。出展数は昨年より減ったが、プレ写真展含め、区役所内での展示により、「さんの市」や事業全体の広報に奏功した。
- ・年度末フォーラム：2 月 15 日（日）に高津区役所 1 階ホールにて、今年度の事業報告とパネル展示（高津の大きな木、高津の遺跡、高津の農地とヒートアイランド）兼「さんの市」を開催した。
- ・5 月 6 日（火祝）武蔵小杉「かわさきフードフェスタ」、11 月 9 日（土）「プラザ橘まつり」に出店した。
- ・タウンニュースに連載した農家さんとレシピの情報と、直売所マップを携行できる印刷物にして「概要版」とし、配布を開始した。

-課題：各事業において、事務局主導体制からの移行が難しく、次年度以降は事務局ではないが、委員会へは継続参加し、体制づくりに協力する。

（２）コミュニティビジネス（CB）を支援するための事業の企画・実施（定款第 5 条(2)）

① 創業支援事業者補助金事業（担当理事：竹林・田代、スタッフ：吉田・東・佐藤）

収入：5,746,129 円（予算 4,200,000 円）

補助金 3,400,000 円・売上等 1,346,129 円

（ワンデイ&チャレンジ：369,900 円 貸しスペース：247,865 円・コミュカフェ講座受講料&イベント参加費収入 728,364 円）

寄付金 1,000,000 円

支出：5,833,857 円（予算 4,200,000 円）

■目的：地域に必要な仕事を地域で起こすための人材の育成

■概要：「メサ・グランデ」の設備を使い、ワンデイシェフ、チャレンジシェフ、レンタルキッチン&スペース・コワーキングカフェ、コミュニティカフェ開設講座を実施する。それら事業が「川崎市創業支援事業」に認定されたことを受け、さらに創業支援事業者補助金の対象事業に採択された。メサ・グランデの飲食店機能の繁忙時間以外を有効活用し、「コミュニティビジネス相談事業」とも連動しながら、専門家の紹介を含めた個別・ハンズオン支援を行い、創業の実現につなげていく。

ワンデイシェフは土曜日・日曜日・祝日に、飲食店起業を希望している方に、1 日限定のお店運営の体験をしてもらう事業。チャレンジシェフは平日の夜の営業を 2 カ月連続で体験してもらい、連続したオペレーションの練習をしてもらうという事業。レンタルキッチン&スペース・コワーキングカフェはミニ講座をやりたい、または郵便物の受け取り等に住所を使いたいミニ起業家に施設を供用する事業である。コミュニティカフェ開設講座は、地域のたまり場・居場所づくりのサポートのため 9~10 月に 6 回連続講座を開催し、さらに、11~12 月に 3 回の実践塾を開催した。

■目標と成果/課題

（ア）ワンデイシェフ

-目標：20 名利用・2 名起業

-成果：22名延べ55回の利用があった。内1名はもうじき「そば店」を出店する予定で物件の改装に入っている。

-課題：広報が課題で、やりたい人に情報が十分届いていない。

(イ) チャレンジシェフ

-目標：2名利用→2名起業を目指す。

-成果：利用目標2名に対し、利用者も2カ月 利用と4か月利用の2名であった。

その2名とも、すぐに開業したいというよりも実践的な練習、トライアルの場として捉えられていたため、年度内の開業には結びついていないが、具体的な起業準備の一環の中で、本プログラムを活用してもらえた。

-課題：飲食業を本格的にやりたい人にとっては、仕込み時間の長さ、閉店時間の早さなど、困難な条件であったと思われる。

(ウ) レンタルキッチン&スペース・ワーキングカフェ

-目標：10名利用

-成果：31名の方に延べ110回の利用があった。料理教室や編み物教室やビーズアクセサリー教室、キャンドルづくり教室など。

-課題：ランチタイムは使えないなど、打ち出しが弱く、集客力に欠けた。

(エ) コミュニティカフェ開設講座

-目標：20名利用→1名起業

-成果：「コミュニティカフェ開設講座」(6回) 受講者21名

「コミュニティカフェ実践塾」(3回) 受講者3名

具体的な起業準備態勢に入った人は4~5名。

-課題：単年度の成果は見えにくいので、今後の継続的フォロー、追跡が必要。

② 地域創業促進支援事業 (担当理事：竹林・田代、スタッフ：吉田)

収入：2,657,420円(予算1,800,000円) 支出：2,542,708円(予算1,800,000円)

■目的：地域に必要な仕事を地域で起こすための人材の育成

■概要：「かわさきコミュニティビジネス創業セミナー」(1回 8月30日 川崎商工会議所にて)「かわさきコミュニティビジネス創業スクール」(ベーシックコース 9月6日~11月8日・女性起業家コース 9月20日~11月16日 各8回 川崎商工会議所・NAGAYAかわさきにて)の開催

■目標と成果/課題

-目標：セミナー・各コース40名参加

-成果：セミナー参加者16名、スクールベーシックコース 9名、女性起業家コース14名

-課題：単年度の成果は見えにくいので、CB相談による継続的フォロー、追跡が必要。

③ 川崎市コミュニティビジネス振興事業(担当理事：竹林、スタッフ：田代・佐藤)

収入：2,009,880円(予算2,000,000円) 支出：2,009,880円(予算2,000,000円)

■目的：市民のコミュニティビジネスやソーシャルビジネスに対する関心を高め、それらに就業・創業したい人や、すでにそれらの事業を行っている事業者への支援等を通して、市域でのコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの振興を図る。

■概要：川崎市の委託を受け、コミュニティビジネス振興事業を実施する。相談窓口業務はメサ・グ

ランデ店頭に看板を設置。また、専用電話回線、メールアドレス、ホームページを整備し、相談の間口を広げ、専門アドバイザーとの連携体制を構築し、相談者へのフォローを強化する。また、コミュニティビジネス支援セミナーの開催、メルマガでの情報発信も継続した。

■目標と成果/課題

- 目標：「メサ・グランデ」という常設の起業支援の場があるということを活かし、起業実績を増やすことに注力する。相談対応数の目標件数：50件、起業目標数：2件
- 成果：
 - ・相談事業：今年の相談人数は49人、複数回利用の方もあったので、相談対応回数は64件で、起業実績は4件。「o-en」（多摩区、個人事業、冷え取り専門雑貨店）、「Chaangstyle」（高津区、個人事業、タイ式ヨガ&コワーキングスペース）「母家」（高津区、個人事業、コミュニティスペース）、「須藤メンタルサポートオフィス」（高津区、個人事業、メンタルサポートワークショップ）
 - ・「かわさきCB/SB（コミュニティビジネス/ソーシャルビジネス）メルマガジン」12回発行
 - ・「かわさきコミュニティビジネス/ソーシャルビジネスセミナー」3回開催
 - 第1回「月3万円のCB/SBを考えてみよう」11月9日（日）にこぶら新地にて
講師 3-biz 前田商店代表 前田敏之さん 参加者 27名
 - 第2回「スキル・経験を活かしたCB/SB立ち上げ・継続のコツ」11月19日メサ・グランデにて 講師 NPO法人イー・エルダー理事長 鈴木政孝さん 参加者 16名
 - 第3回「CB/SB・市民事業×地域メディア＝？」11月26日（水）NAGAYAかわさきにて
講師 朝日新聞 村山恵二さん・神奈川新聞 山下徹さん・かわさきFM 加藤紀広さん・タウンニュース社 山田洋一さん（コーディネーター杉原志保さん）
参加者 18名
- 課題：相談対応は、単年度では難しく継続性が大事であるが、常設の会場費・人件費が確保されておらず、事業設計上の課題があると思われるので、市に提言していきたい。

（3）子育てを支援する場所の運営及び関連事業の企画・実施（定款第5条(3)）

① 川崎市地域子育て支援センター

（担当理事：池畠、スタッフ：広岡・小林・鈴木・手塚・山下・勝呂・足利・清水文）

収入：3,835,542円（予算3,820,000円） 支出：3,835,542円（予算：3,820,000円）

- 目的：「場」を通じて、子どもにとって友だちができること、お母さんにとっても仲間と出会えること、このまちに住む人にとっても、子どもたちのことを考え交流できることを目的とする。
- 概要：昨年に引き続き、市内のこども文化センター内で、週3日午前中、未就園児とその保護者向けのサロン事業を2館において実施する。枳形こども文化センターにて月・火・水曜、大戸こども文化センターにて月・火・木曜日に実施（各区からの委託事業）。お母さんグループの支援を行う。さらに今年は委託契約の3年目となり、次年度以降の受託に応募するかどうか、できるだけ当事者のお母さんたちが主体的な関わり方ができるようなかたちで、方向性を検討する。

■目標と成果/課題：

- 目標：利用者のニーズに合わせて、お母さんたちが主体的に参加できる場づくりを行う。
- 成果：3年目で利用者の意識も変化があり、お母さんたちが講師となる行事の開催ができるなど、より主体的に関わりが持てるようになってきた。

また、特にますがたでは、2-3歳児向けのサークルの支援などを行った。

利用者人数・回数 おおと： 154回 4603人、ますがた： 154回 3512人

-課題：このような場づくりを来年度以降も継続できるように、事業委託に応募したが、おおとは受託が決まったが、ますがたに関しては継続とならなかった。

② 多摩区・中原区子育て支援会議、多摩区・中原区子ども総合支援連携会議等への参加

(4) 市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施 (定款第5条(4))

① 遊友ひろば事業 (担当理事：池上・鈴木健介・町田)

収入：3,631,694円 (予算3,258,000円) 支出：3,568,087円 (予算3,258,000円)

■目的：幅広い世代の住民の交流を促進し、周辺地域のコミュニティを活性化する。

■概要：ひろば運営に関心のある会員有志が運営委員会を開催。各種担当を置き、メーリングリストと月例会議(毎月末ごろ)を通じて情報共有、意見交換、運営の調整をする。

■目標と成果：

- (1) 利用者層の拡大 → 達成。詳細は各事業の項目を参照のこと。
- (2) 単年度黒字化(寄付金308千円確保) → 達成 =49,387円
- (3) 遊友ひろば交流会(11/30)の実施…参加23人(各種ボランティア、利用者、運営委員)

(ア) 地域住民等への活動場所の提供 担当ボランティア：池上・秋山・細埜(石橋屋酒店)

■概要

- ・キッチン付き貸スペース…1時間1,200円(うち200円まで使用可)。新規利用者が2時間以上利用する場合は初回1時間無料特典を実施。
- ・荷物保管用引出し等(1カ月500円)
- ・手紙およびFAXの受け取り場所としてのレターボックス(1カ月300円)→FAX受取は終了
- ・壁面掲示・チラシラック等を活用した情報提供(地域の市民活動・行政等の情報)

■目標と成果

(1) 貸スペースの新規需要発掘→達成

- ・登戸東通り商店会の事務所引き払いに伴い、9月から会議等活動の場として、遊友ひろばを活用してもらうようにした。月額2万円の安定収入にもつながり、商店会との連携もこれまでに深まった。
- ・定期・不定期利用 合計36団体・個人(前年比2.0倍18増)うち新規18
延べ296回(前年比1.6倍)、804時間(前年比1.5倍)

収入918,950円(前年比1.4倍27万円増)、49,550円

年度	団体・個人数 (新規)	延べ 回数	時間	収入		支出	
				円	たま	円	たま
2014	定期的11(4) 不定期28(14)	定期的203 不定期93	804	918,950	49,550	0	1,500
2013	定期的8() 不定期10()	定期的158 不定期25	528	649,150	32,500	0	0

空欄は不明。支出は直接的なもののみ。保険料や家賃は按分していない。

(2)チラシ管理の効率化と閲覧性向上 → 一部達成

ひろばの隅の長机に積み重ねていたチラシ類を全て壁面ポケットに収納した。閲覧性向上とともに、デッドスペースを開放することができ、ひろばをより広く使えるようになった。

■課題

チラシ管理の効率化については十分に達成できていない。

(イ) 健康麻雀 担当ボランティア：瀬川・町田・小林・志村（3月にて終了）・江田・長谷川・馬上・盛澤ほか

■概要

- ・主な参加者である年配者が麻雀を通して地域の人と交流をし、自然に頭や指先を使うことで、心身の健康の促進を図る。
- ・初級者サロン（火曜 13時～17時）1回 1200円
- ・健康麻雀サロン（金曜 10時～15時）1回 1500円
- ・いずれも 500 たままで使用可。

■目標と成果

(1)火曜・金曜とも卓数 4（16名参加）→ ほぼ達成できた

年度	曜日	開催日数	平均卓数 (人数)	延べ人数 (うちボラ)	収入		支出	
					円	たま	円	たま
2014	火	49	3.4 (14)	669 (79)	634,500	38,700	34,826	63,560
	金	49	4.2 (17)	815 (50)	1,007,100	20,400	63,974	22,900
2013	火	49	3.1 (12)	601 (109)	1,426,050	56,600		61,450
	金	47	4.1 (16)	762 (48)				

空欄は不明。支出は直接的なもののみ。保険料や家賃は按分していない。

(2)初級者サロンの新規参加者拡大 → 達成できた

- ・新規参加者数 12人
- ・チラシ配布や、ひろば前に立ち止まる人への勧誘、社協のボランティア講座での宣伝などが功を奏し、満員でお断りする回もあった。

■課題

(1)金曜日（上級クラス）では、勝負に熱くなりすぎる参加者もいた。ただ、参加者が自主的にまとめ役を決め、マナー向上のための提言等をする動きも出てきている。

(2)人数調整で、ボランティア参加者をなかなか確保できず苦勞する時が多々あった。

(ウ) 親子ひろば 担当ボランティア：粕谷・鈴木俊輔

■概要

- ・利用者の希望に基づく多彩な講座等イベントを実施（別途イベント参加費を徴収）し、地域の子育て中の親が知り合うきっかけの場づくりをする。
- ・第 2～5 水曜日（前年度は毎週木曜日）祝祭日は休み。10時半～14時。
- ・基本参加費 300円（昨年度は 200円）。100 たままで使用可

■目標と成果

(1)ボランティア運営体制の強化→進んだ

従来の参加者に声をかけてボランティア運営体制を作ろうとしたが、当初はうまくいかなかった。しかし、年度末近くになって近隣在住で子育て中のボランティア仲間を得ることができ、2015年度に向けた新たなボランティア体制を組み直すことができた。

(2)事業単独での赤字解消（家賃分を除く）→達成できた

年度	開催 日数	平均 組数	延べ 組数	収入		支出		収支	
				円	たま	円	たま	円	たま
2014	37	5.5	202	59,450	1,650	43,595	12,100	+15,855	-10,450
2013	48	7.1	340	66,400	1,600		45,100		

空欄は不明。支出は直接的なもののみ。保険料や家賃は按分していない。

(エ)土井さんのマクロビオティック料理教室 担当ボランティア：町田・鈴木俊輔・鈴木和子・宮下

■概要

- ・季節料理、行事をとりいれつつ、体調に合わせたメニューをつくるコツを学ぶ。幅広い世代を対象にし、「自然の恵を残さず丸ごといただくこと（一物全体）、暮らす土地の旬のものを食べる（身土不二）」を基本とした料理を学ぶ。
- ・講師：土井由美子さん（ぐらす・かわさき会員）
- ・第1水曜日・土曜日開催。利用料1回2500円（1回につき100たままで使用可）。

■目標と成果：宣伝をこまめに行い、各回最低でも5人程度の参加者を獲得する。

- ・全ての回では達成できなかったが、継続が大切と考え、3名程度でも開催した。
- ・参加者が友達を誘ってくださったことで1名増え、Noboritan Support という新聞折込媒体で宣伝したところ、新しい参加者が2名増えた。

年度	開催 日数	平均 人数	延べ 人数	収入		支出		収支	
				円	たま	円	たま	円	たま
2014	15	4.5	68	137,850	0	99,400	5,600	38,450	-5,600
2013	12	5.2	62						

空欄は不明。支出は直接的なもののみ。保険料や家賃は按分していない。

(オ) 寺子屋 担当ボランティア：川口・高崎・徳田・野口・町田

■概要

- ・小4～中学生に「わかった!」「やればできる!」という学びの楽しさを伝える。
- ・教科…算数・数学・英語。月曜日開催。1時間500円。講師…地域のボランティア

■目標と成果

- ・小学生、中学生ともに各3名程度の参加者増をめざす。
- ・小学生については達成できなかったが、中学生は5名増加した。

年度	曜 日	開催 日数	平均 人数	延べ 人数	収入		支出		収支	
					円	たま	円	たま	円	たま
2014	算	41	2.2	91	51,500	0	159,934	0	+160,566	0
	数	41	6.0	247	116,000	0				
	英	41	7.4	305	153,000	0				
2013	算	39	7.9	309						

	数	39	2.5	96					
	英	40	3.6	143					

空欄は不明。支出は直接的なもののみ。保険料や家賃は按分していない。

■その他

- ・中学生は勉強の後に、怖い話大会、英語のゲーム大会などのイベントを6回実施し、学年を越えた交流も深めたことで、居場所的要素を加えることができた。
- ・短期間だが、KS アカデミーや日本女子大学からのインターン生、単発的だが、他の英語の先生、外国人の先生に来ていただき、新鮮な交流も深めた。

(力) 学習会・講座の企画・運営

■概要

- ・暮らしの中の疑問、環境・人権・平和問題等について学び合う場を設け、地域での交流を図る。
- ・企画、運営してみたい方を募り、一緒に企画を作っていく。

■成果

- ・「市民後見を進めるかわさきの会」に協力し「成年後見人制度」の5回連続学習会を実施（5～9月）。延べ49人が参加。
- ・3/15 毎年恒例の「川崎市予算学習会」（第16回）を実施。23人が参加。

■課題

- ・会報やHPなどを通して学習会を開催したい方の掘り起こしをもう少しできればよかった。

(キ) 商店街活性化のための活動

■概要：依頼があれば、多摩区商店会連合会や登戸東通り商店会の事務補助などを行う。

■成果

- ・例年依頼を受けている事務作業を受託（多摩区商店会連合会の総会議事録作成、登戸東通り商店会の商品券作成）

② メサ・グランデにおける八百屋カフェ事業

（担当理事：竹林・田代、スタッフ：佐藤・横山・吉田・新堀・青木・清水佳・西川・東・高谷）

収入：15,807,634円（予算：15,700,000円）粗利：8,293,527円（予算：7,900,000円）

野菜売上 5,467,770円 カフェ売上 6,633,714円 イベント参加費（パパ子クッキング） 53,000

円 委託費（就労支援）462,000円 補助金（障害者雇用等）157,650円 寄付金 3,004,000円

支出：8,111,675円（予算：6,520,000円）

(ア)八百屋事業

■目的：地産地消の推進。市内農資源のアピールによる、地元意識の醸成。農と地域住民を結ぶ。

■概要：地元野菜・地元野菜を使った加工品・趣旨に合う雑貨等の仕入れ・販売を行う。

■目標と成果・課題

-目標：売れ残る野菜をカフェの食材として、これまで以上に多量に使い、委託販売に甘んじず、廃棄ロスを削減する。端境期の売上減を緩和する。

-成果：できるだけその日にある野菜を使った料理を展開できるメニューを展開したので、廃棄ロス

は削減できた。端境期の売上減の緩和については、「たちばな地区」に限らず、宮前区などの農家に取引先を増やすことでオーソドックスな野菜が主流の久末に比べて差別化を意識した野菜が入り、店頭はにぎわった。区が変われば端境期がずれ、売上額自体は前年度対比で若干落ちる月もあるが、年間を通してみると110%の成長と成果を上げた。

-課題：取引先が多くなり、事務量が煩雑になってきている。利益率が低い部門なので、継続するならば、売上金額を更に伸ばす必要がある。

(イ)カフェ事業

■目的：野菜たっぷりの食事の提供により、地域の健康づくり・食育・地域コミュニティを促進。持続可能な「コミュニティカフェ」の一つのモデルを示す。

■概要：できるだけ地場野菜や、添加物などを極力使用しない安全な材料を使って、モーニング・ランチ・喫茶・弁当惣菜の調理・販売を行う。具体策としては、特徴あるメニューの打ち出し、また、店内環境を整備し居心地のよい店づくり、接客技術の向上を図る。新規顧客を呼び込む。「貸しスペース」と連動してモーニングや喫茶の売り上げの向上を図る。利益率のよい、「惣菜・弁当」の売り上げアップを図る。稼働日数の少ない地元主婦のパートスタッフが多いので、スタッフ間のコミュニケーションを潤滑にし、効率的な引き継ぎや意識の共有などに配慮し、多様な働き方の実現できる職場として、風土づくりに更に取り組む。イベント（ハーブフェスタ・パパ子でクッキングなど）、学習の機会を設け、地域コミュニティの促進を図る。商店街のイベント「まちゼミ」への参加などを通じて、地域とのつながりを参加者に感じてもらうような場づくり・機会提供を行うことができた。店舗設置のチラシが大量にあり、情報収集に来る客にも価値を提供している。

■目標と成果/課題

-目標：売り上げの増大・利益率改善

-成果：売上は前年度より低下（86%）。一方、利益率は大幅に改善した（利益率の推移の数値はないが、人件費を約50%カットしたため。材料原価率も低減している）。開店以来3年で色々なやり方を試して、ようやく在庫のコントロールや適正な材料の量などを把握できるようになってきて、原価率が下がってきている。このやり方を基本に、随時改善していけばよいと考える。

-課題：やれる事業規模に比べ、ややスペースが大きく、家賃も高いことが、黒字化できていない要因だと思われる。また、スタッフの参画意識に開きがあり、一部のスタッフに負担が偏り不満が出たり、勤務日数が少なすぎるためにスキルが上がらず、サービスの質を確保しきれなかった点を改善すべき。

(5) 以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供（定款第5条(6)）

① さまざまなグループへの参加と応援

収入：524,214円（予算：20,000円） 支出：294,066円（予算：0円）

■目的：市民活動グループとのネットワークを広げ、市民活動がより活発になるよう参加し応援する。

■概要：ぐらす・かわさきの設立母体だった団体のつながりから続いている団体や、新しく呼びかけたり、呼びかけられて参加している団体など、ぐらす・かわさきのミッションにあったグループへ参加し、応援した。また、他の中間支援組織より委託を受け、ボランティア団体成長支援や自然エネルギーへの関心度調査などを行った。

・地域通貨「たま」運営委員会への参加（担当ボランティア：江田）

「たま」運営委員会の事務局を担い、活動に参加した。

- 多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）への会員としての参加
会員として参加し、事務局を応援した。
- 教育に憲法を活かす川崎市民の会への参加
- 川崎 NPO 法人連絡会への会員としての参加
- 「多摩区観光推進協議会」理事として参加（町田）
- 「NPO 法人セカンドリーグ神奈川」理事として参加（田代）
- 「かながわ生き生き市民基金」評議員として参加（江田）
- その他「福島の子どもたちとともに川崎市民の会」の協力団体として参加
- NPO 法人 NPO サポートセンターよりインターンの受け入れ（田代）
- 中央労働金庫助成金審査協力（広岡）
- NPO 法人アクションポート横浜の「ボランティア団体成長支援事業」に支援者として参加（吉田）
- NPO 法人アクト川崎の「ソーラーシェアリングについての農家の意識調査」に調査協力（田代・吉田）

② 講師派遣

収入：0円（予算：0円） 支出：0円（予算：0円）

依頼に応じ、スタッフを講師として派遣し、コミュニティビジネスや市民活動を支援した。

- 豊島区男女共同参画センター(田代)
- 多摩区 PTA 区P講演会(田代)
- NPO法人高津スポーツセンターSELF 運営の「久本小学校寺子屋」(東・吉田・田代)
- KS アカデミー(田代)

③ 行政などに関わる委員会への参加

収入：91,000円（予算：0円） 支出：90,896円（予算：0円）

- 川崎市協働・連携のあり方検討委員会（広岡）
- 川崎市都市計画審議会(田代)

④ 広報（担当理事：池上・薬袋、担当スタッフ：広岡）

収入：0円（予算：0円） 支出：230,252円（予算：350,000円）

広報においても選択と集中を意識し、WEBの活用を拡大し、ぐらすレターを縮小の方向で、効果的な広報に取り組んだ。

• インターネットの活用

専修大学の学生さんの授業の課題として、遊友ひろばのホームページを作っていた（公開準備中）。

• ぐらす・レターの発行

ぐらす・レターは年間6回発行した（4月・7月・9月・11月・1月・3月）。